

令和元年度 第1回 朝日地域振興懇談会

次 第

日 時 令和元年12月12日（木）
午後1時30分開会
場 所 朝日庁舎4階 大会議室

〈委嘱状交付〉

1. 開 会

2. あいさつ

3. 委員紹介

4. 会長・副会長の選出

5. 協 議

(1) 鶴岡市第2次総合計画について

(2) 朝日地域振興計画及び地域まちづくり未来事業について

(3) その他

6. そ の 他

7. 閉 会

『鶴岡市総合計画』『朝日地域振興計画』『地域まちづくり未来事業』について

3つの計画策定の背景

平成20年度に策定した「鶴岡市第1次総合計画」が平成30年度、平成26年に策定した「朝日地域振興計画」も平成30年度にそれぞれ計画期間が終了することから、平成31年度からのそれぞれの新計画を平成30年度に策定しています。

第2次総合計画は、計画期間が満了することとともに、第1次計画策定後に少子高齢化に伴う人口減少の進行や大規模な自然災害の発生による安心・安全意識の高まりなど、地域を取り巻く環境が大きく変化したこともあり、31年度以降の新たなまちづくりの指針として策定しました。

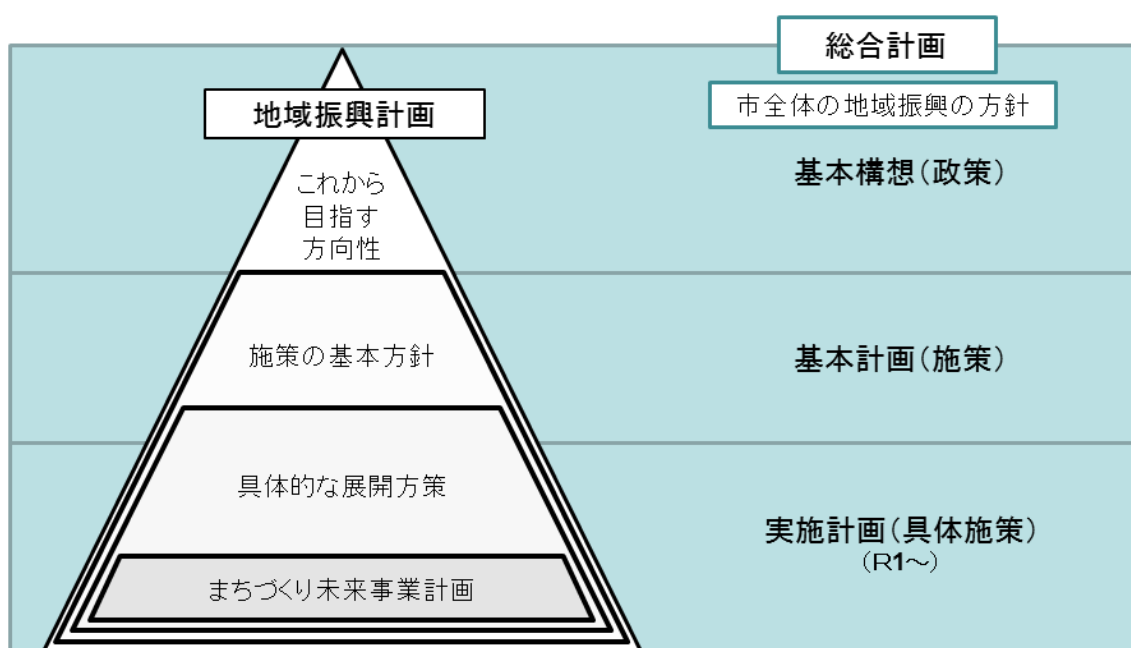
策定に当たっては、各分野の課題検討のため、企画、市民文教、厚生、産業、社会基盤の5つの専門委員会を組織し検討を行い、鶴岡市総合計画審議会での協議を行っています。

なお、計画策定の過程においては、審議会等での協議検討に加え、地域振興懇談会やワークショップ、パブリックコメントなどの中で、市民視点を重視した計画の策定に取り組んでいます。

また、市全体の計画としての「総合計画」に加え、地域固有の課題解決のための計画として旧町村単位で「地域振興計画」を策定するとともに、「地域振興計画」を具体的に展開する方策として「朝日地域まちづくり未来事業計画」を策定し、具体的な事業計画を策定しています。

なお、「朝日地域振興計画」、「朝日地域まちづくり未来事業計画」の策定に当たりましては、朝日庁舎内に担当者を中心としたプロジェクトチームを組織し、担当分野だけでない横断的な検討を進めるとともに、管理職による戦略会議を開催し計画原案を策定しており、地域振興懇談会の委員の皆様からの意見等を取りまとめ、平成31年3月に2つの計画を策定しています。

鶴岡市総合計画・地域振興計画・未来事業計画 3計画の関係イメージ図



◆ 朝日地域まちづくり未来事業の概要 ◆

地域の特性や資源を生かした特色ある地域づくりを目指します



【現状分析】朝日地域は...

緑豊かな自然・歴史が織りなす文化
森林資源などの大いなる恵み

=

豪雪・自然災害等が発生
定住する上では厳しい自然環境

時代とともに変化しつつある要因

少子・高齢化や人口減少が顕著 = 集落機能の維持が困難
就業構造の変化 = 第1次産業従事者の減少・後継者不足



地域振興の方針：「中山間地域の暮らしを守り、支える取組み」

暮らしを守る取組

I 中山間地域における定住環境の支援

1. 地域内生活交通の維持・確保を目指します

高等学校等生徒通学費支援事業（バス定期購入への支援）	3,857千円
地域内運送サービス試験運行事業（コミュニティ組織への支援）	190千円

2. 快適で安心・安全な住環境整備への支援を進めます

助け合い玄関前除雪支援事業（玄関前共同除雪への支援）	320千円
----------------------------	-------

3. 高齢者がいきいきと生活できる環境整備を進めます

介護予防・健康増進事業（かたくり温泉ぼんぼの運営支援）	6,600千円
（かたくり温泉入浴施設管理事業）	

4. 地域を支える人材の育成を目指します

「子どもの村学園」国際交流派遣事業（派遣団体への支援）	2,027千円
地域情報広報事業（地域振興カレンダーの作成・配布）	170千円
大鳥自然の家環境整備事業（施設改修及びプログラム開発）	4,350千円

資料内の金額はR1年度予算額：総額56,899千円

暮らしを支える取組

II 森林資源、自然環境等を活用し、中山間地に特化した農林業の振興

1. 中山間地域における持続的な農業体系の整備を進めます（食文化の発信）

産業振興施設整備事業（複合産業振興施設の整備）	2,693千円
伝統料理の継承事業（郷土伝統料理の保存継承）	150千円
山ぶどう産業自立支援事業（山ぶどう販売を支援）	2,000千円

2. 森林資源の有効な保全と活用を目指します（山里の宝の掘り起し）

山の恵み産地化事業（山菜種苗の導入支援や技術研修）	2,200千円
森林荒廃防止支援事業（木材の利活用を図り、森林整備への支援）	200千円

III 自然、文化、風土等、地域資源を活用した観光の振興

1. 観光振興施設と観光者受入環境の整備を進めます

あさひ自然体験交流施設維持管理事業（スキー場施設の改修等）	28,022千円
-------------------------------	----------

2. 地域の自然、文化、食の魅力の発信を進めます（交流人口の拡大）

観光市営バス運行事業（観光客2次交通の確保）	3,470千円
朝日連峰コミュニティネット運用事業（無線を使った情報提供支援）	100千円
食と六十里越街道トレッキング連携事業（街道事業への支援）	300千円
大鳥地域淡水活性化事業（ヒメマスの放流事業）	250千円

高校生等通学費に支援制度を創設します

鶴岡市では、平成31年度から、高等学校等までの距離が遠く、通学費の負担が大きい朝日・温海地域から通学する高等学校等生徒保護者の皆様を対象にし、通学に要する費用の一部を支援する制度を創設します。



制度の趣旨

この制度は、高等学校等生徒通学費負担の平準化を図るとともに、過疎地域での子育て支援や定住促進を目的とし、併せて、減少傾向が続くバス路線等公共交通機関の利用拡大を目指す取組みです。

制度の概要



朝日・温海地域にお住まいで、自宅から高等学校等までバス、JRの定期券を購入し通学している生徒の保護者を対象に、自己負担額上限 月額5,000円（年額60,000円）として、それを超えた通学費※を補助する制度です。

※ 通学費の計算方法には基準があります。裏面の計算例をご参照ください。

また、自宅から最寄りの駅又はバス停までの距離が2km以上ある場合に限り、自家用車送迎に要する費用が通学費に加算（自家用車送迎加算）される場合があります。

※ 公共交通機関での移動が出来ない場合に限りです。裏面のQ&A及び計算例をご参照ください。

これまでだと…

※ 平成31年3月現在の料金により計算しています。

【朝日地域】

新落合～内川通り 年額133,200円
バス定期券（キャンパスパスポート1年）

【朝日地域】

上田沢～エスモール 年額163,440円
バス定期券（キャンパスパスポート1年）

これが…

年額60,000円の自己負担で通学できます。

この事業は **地域まちづくり未来事業** により取り組んでいます！

◆ この制度の詳細につきましては、下記までお問い合わせ下さい ◆
朝日地域にお住まいの皆様：朝日庁舎総務企画課 53-2112

* 申請手続き、具体的な計算例等、Q&Aを裏面に記載しています。併せてご覧ください。

高等学校等生徒通学費支援事業 Q&A

Q1 この事業で補助を受けるための条件は何ですか？

A1 以下の条件をすべて満たすことが必要になります。

- ①高等学校等に通学する生徒(平成31年4月1日現在、1年～3年に在学する者に限る。)、保護者ともに朝日又は温海地域に住所があること。
- ②通学のために、JR又は路線バス(公共交通機関)の定期券を購入していること。
- ③教育委員会学校教育課で行っている市民税非課税の保護者を対象とした「鶴岡市朝日・温海地域高等学校等遠距離通学生徒補助金」の交付を受けていないこと。

Q2 バス・JR等は利用せず、自家用車で高校まで送迎していますが、この事業の対象にはならないのですか？

A2 公共交通機関を利用しない場合は、この制度の対象にはなりません。

ただし、公共交通機関を利用する際、バス停までの距離が片道2km以上ある方の自家用車送迎については、定期券代と合わせて自家用車による送迎費用も対象になります。(自家用車送迎加算)

* A3をご参照ください。

Q3 自家用車送迎加算について教えてください。

A3 通学に際し、最寄バス停留所までの家族等の自家用車送迎に要する費用として一定の計算式で得た費用を通学費に加算できます。ただし、片道2km以上の場合に限りです。詳しくは表面の問い合わせ先までお問い合わせください。

Q4 回数券や現金でバスや鉄道に乗っていますが、その運賃はこの事業の対象にはならないのですか？

A4 補助対象となる運賃の支払いであることを確認できないため、この事業の対象にはなりません。A1回答のとおり、定期券購入が補助の条件です。

Q5 補助金の計算方法について、詳しく教えてください。

A5 自宅から通学する高等学校等まで合理的な経路を利用し、1年間を通して通学するために購入可能で最も経済的な定期券代を年間補助対象事業費の基準とします。

注：最も経済的な定期券代(＝年間補助対象事業費の基準)とは…
バスの場合 … 庄内交通キャンパスパスポート通学定期1年
JRの場合 … JR旅客通学定期6ヶ月

(例) 落合集落(最寄バス停が新落合)から鶴岡工業高校に通学

定期券購入費 ⇒ 133,200円 (バス乗車区間：新落合～本町川端通りを1年定期で購入)
補助対象通学費 ⇒ 133,200円
補助金の額 ⇒ 133,200円 - 60,000円 = 73,200円

Q6 申請手続きはどのようになりますか？

A6 定期券の使用期限が終了した翌日以降に、利用した定期券の写し又は定期券を購入したことを証明する領収書等の写しを持参の上、申請手続きをしてください。

申請期限は、定期券終期の属する年度末【平成31年度(令和元年度)にあつては、3月31日(火)】です。なお、申請窓口は朝日庁舎総務企画課又は温海庁舎総務企画課になります。庄内交通及びJR東日本各窓口での補助金申請手続きはできませんのでご注意ください。

申請手続きの詳細は、市のホームページ(HP)又は朝日庁舎総務企画課でご確認ください。

鶴岡市内の中学校1年生から高校3年生の皆さんへ

タイ「子どもの村学園」国際交流派遣事業 派遣団員を募集しています

いつ 令和2年3月19日(木)～25日(水) 【6泊7日】
どこへ タイ国(主な滞在先:「子どもの村学園」)
募集人員 鶴岡市内に在住する中学校1年生から高校3年生 計8名
主催 鶴岡・タイ「子どもの村学園」友好協会
共催 鶴岡市
参加負担金 3万円(食事代等) *交通費・宿泊費は全額市の補助です
負担金の他、パスポート取得費用や土産代等の個人経費は自己
負担となります
応募要件 過去にラフォア市やニューブランズウィック市派遣事業に参加
したことがないこと
帰国後に報告会での体験発表、会誌等への寄稿ができること
鶴岡・タイ「子どもの村学園」友好協会に加入できること
(年会費3,000円)



この派遣事業は…

タイ「子どもの村学園」での相互交流やボランティア活動を通して、日本とは異なる文化への理解を深め国際的視野を広げるとともに、交流のネットワークを作っていくことが目的です

タイ国「子どもの村学園」(Moo Baan Dek)とは…

1978年に設立された「タイの子供財団 (Foundation for Children) が運営する児童養護施設です。タイ教育省から認可を受けた教育施設で入所者は両親がいない又は貧困・家庭崩壊等の家庭の子供がほとんどであり、150名程が共同生活をしています。

派遣日程 (注: 案内時点での予定で、時間及び研修先等の変更がある場合があります)

日程	スケジュール	宿泊先
3月19日(木)	午前 鶴岡出発 庄内空港 出発 → 羽田空港 到着 昼 羽田空港 出発 → 夕方 タイ国 スワンナブーム空港 到着	バンコク市内ホテル
3月20日(金)	午前 カンチャナブリー県研修先へ移動 タイの子供財団(FFC)訪問、戦争博物館の視察研修等 午後 子どもの村学園へ移動	子どもの村学園
3月21日(土)	終日 子どもの村学園 滞在	子どもの村学園
3月22日(日)	終日 子どもの村学園 滞在	子どもの村学園
3月23日(月)	午前 子どもの村学園 出発 バンコク市内へ移動 午後 タイ国進出日系企業への訪問	バンコク市内ホテル
3月24日(火)	午前 国立博物館の視察研修 午後 エメラルド寺院、ローズガーデンの視察研修等 夜 スワンナブーム空港 出発 →	航空機機内
3月25日(水)	朝 羽田空港 到着 午前 羽田空港 出発 → 昼 庄内空港 到着・解散	—

なお上記日程とは別に、1月、2月、3月に語学研修等の事前研修会を開催する予定です。合わせてご参加下さい。

応募方法

裏面申込書と作文を12月12日(木)まで表面の鶴岡・タイ「子どもの村学園」友好協会事務局へ直接提出して下さい。
(郵送での応募も可能ですが、12月12日事務局必着となりますので御注意下さい。)

なお応募者が定員を超える場合は、作文審査と面接による総合評価により派遣団員を決定します。

* 面接会(予定)日時: 12月21日(土)午後1時30分から

会場: 鶴岡市朝日中央コミュニティセンター (詳細は応募取りまとめ後に改めて連絡します)

【作文のテーマ】「私がタイに行きたいと思った理由」 * 700～800字にまとめて提出して下さい。

* 市販の原稿用紙、パソコンで作成・印字したものなど提出方法は任意としますが、字数は厳守して下さい。

【申し込み及びお問い合わせ先】 997-0404 鶴岡市下名川字落合220(鶴岡市朝日中央コミュニティセンター内)

鶴岡・タイ「子どもの村学園」友好協会事務局 菅原 TEL 53-3560

問い合わせ受付時間: 月～金 午前8時30分～午後5時 申し込み受付時間: 毎日 午前8時30分～午後10時

(資料)ところで...『タイ』ってどんな国？



タイ王国

Kingdom of Thailand

面積：51万4,000平方キロメートル（日本の約1.4倍）

人口：6,891万人（2017年 タイ国勢調査）

首都：バンコク

民族：大多数がタイ族、その他 華人、マレー族等

言語：タイ語

宗教：仏教94%、イスラム教5%

二国間関係

日タイ両国は600年に渡る交流の歴史を持ち、伝統的に友好関係を維持している。長年の両国の皇室・王室間の親密な関係を基礎に政治、経済、文化等幅広い面で緊密かつ重層的な関係を築いており、人的交流は極めて活発である。

タイにおける在留邦人は72,754人（2017年10月）、タイへの日本人渡航者は約164万人（2018年）、バンコク日本人学校生徒数は2,631人、シーラチャー日本人学校生徒数456人（2017年4月）による。



出典：外務省ホームページ(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/>)地図は加工して作成

タイ「子どもの村学園」とのこれまでの交流経過など

庄内国際交流協会（鶴岡市：山口吉彦会長）主催、旧朝日村共催のもと始めたタイ国カンチャナブリー県にある「子どもの村学園」への派遣事業「ジュニア民間大使」は、昭和63年度(1988)から平成18年度までの19年間継続し、朝日地域から青少年116名、引率者37名、旧鶴岡市、旧藤島町などから110名が参加し、訪問交流と合わせて物資等の寄付、ボランティア活動等を行ってきました。なお、平成14年度から18年度までは旧朝日村（合併後は鶴岡市）の主催で実施しています。

団体での訪問後も個人で訪タイし学園でのボランティア活動に取り組んだ方や、国際協力機構（JICA）職員や海外青年協力隊員として海外で活動される方を輩出しています。



H30.10.14（日）櫛引なべっこ広場での交流会風景

また「ジュニア民間大使」としてのタイへの派遣事業だけでなく、「子どもの村学園」関係者を日本に招待するなどして、相互交流を継続して行っていることも大きな特徴です。これまで派遣OB・OGを中心にして、学園の先生や卒業生などの学園関係者を日本に3回招待していますが、直近では平成30年10月13日から18日までの間、学園の先生2名、卒業生2名の計4名を日本に迎えており、朝日中学校への訪問や交流活動を行っています。

この招待も契機となり、「子どもの村学園」への派遣事業を再開するために令和元年8月に『鶴岡・タイ「子どもの村学園」友好協会』（会員：56名）を組織し、現在派遣事業の準備を進めています。

今回の派遣は、「子どもの村学園」の協力のもと、中学生及び高校生8名に加え、派遣OB・OGである友好協会から会員2名、市から1名の同行を予定しています。

平成18年度朝日地域国際交流派遣事業 参加者からの声(感想文を一部抜粋し、掲載しています)

まだまだ雪が降っている朝日。そんな中、「いよいよタイに行くんだなあ…」とほとんど実感がないうまま、飛行機で7時間かけてやっとタイに着きました☆ 私が一番楽しみにしていたのは、《子供の村学園》の訪問でした。学園に着き、ニー先生達が笑顔で出迎えてくれたのを見たら、「あ～、本当に来たんだなあ」と、すごく実感しました。学園での時間はゆったりしているようでとても早く過ぎていきました。みんなでエラワン滝に行き泳いだり、学園にある川で小さい子達と一緒に川遊びをしたり、セバタクロー、ゲームなどとても盛りだくさんでした。

学園のみんなはいつも優しい笑顔で、とても親切にしてくれました。だから、どうしてもここに居る一人一人が、何か事情を抱えていることがとても不自然に感じました。

人懐っこくて、いつもちょっかいをだしてきたり、ご飯やダンスに誘ってくれたり、自然とみんなの輪に入っていくことができました。しかし、私達と仲良くなったある男の子は、その子自体に何か問題があるわけではないのに、両親から「一緒に暮らしたくない」と言われ、この子供の村学園で暮らしているのだそうです。両親がちゃんとしているのに、一緒に暮らせない。自分が必要とされていない…？どんな気持ちなのだろう。12歳だったらある程度自立はしているけれど、まだまだ親の助けが必要になる。親には親の事情があるのだろうか？どうしても、その両親の考えが理解できませんでした。

もう一人、片足が膝から無くて義足で生活している男の子がいました。耳や手にも少し障害があったのですが、みんなと同じように生活していました。川遊びも、食器の後片付けもみんなと同じようにしていました。本当に、みんなみんな強いと思いました。いつも笑顔で親切で、自分の事は自分でやる。

私も、いろんな意味で強くなりたいと思いました。3日間という短い間だったけれどとても絆が深まったと思います。出発のとき、私達との別れに泣いてしまった子…本当にいい思い出をありがとう！

コッピンカー～！！【編集追記：タイの言葉で「ありがとう」の意味】

私は今回で、2度目の参加です。前回、中学2年生で行った時から今まで、手紙を通して交流を続けてきました。「絶対にまた来よう！」とずっと決めていたので、本当にまた参加することができてとてもうれしかったです。全く違う環境に戸惑いながらも、うんと視野を広げ、大きく成長した前回。それからまた少し成長して参加した今回。感じ方・考え方も少し違ったと思います。これからの学校生活や、様々な活動に役立っていきたいと思います。これからは、今回お世話になった人に少しでも恩返しができるように、しっかりした自分を創っていきたいです。そして、またいつか自分の力でタイに行ったり、お世話になった人達を日本に招きたいです。



その他、下記の資料を事前配布しています。

配布資料については、下記鶴岡市ホームページからご参照ください

1. 第2次鶴岡市総合計画について

トップページ>市政情報>総合計画や市が策定したその他の計画等>第2次鶴岡市総合計画
>第2次鶴岡市総合計画の策定について

2. 地域振興計画について

トップページ>市政情報>総合計画や市が策定したその他の計画等>地域振興計画
>地域振興計画

3. 鶴岡市地域まちづくり未来事業について

トップページ>市政情報>総合計画や市が策定したその他の計画等>市が策定した各種計画等
(第2次鶴岡市総合計画の大綱別) >地域の振興>地域まちづくり未来事業
>地域まちづくり未来事業について